【総合的な学習の時間】領域提案

探究する学びを創る
～　多様な視点で探究することも　～

1．研究テーマ設定の理由

（1）学校提案とかかわって

子どもは本来活動的である。楽しくて一生懸命になって問い続ける活動をすることで，自ら学ぼうとする意識が高まり，多様な視点で探究するようになる。総合的な学習の時間は，子どもたちがそれぞれに自分の好きなところに土俵を設けて，そこで自分の持ち味や良さを十分に発揮できる学習活動である。総合的な学習の時間（以下文中は，総合とする）の学習は，事象を単に知識として獲得するだけではなく，「ひと・もの・こと」という具体的な対象とかかわらせる中で認識され，それを追究していく過程を通して深化していくものであると考える。子どもたちには，「ひと」との出会いを通して，ひとを好きになる心，人と出会い，関わり合うことを楽しみに思う心が育つ。また，「もの」や「こと」を通して地域の人の生き様に触れ，思いや願いを知り成長していく。

学習を深化させるために，子どもが夢中になって取り組み，社会的に価値がある課題を設定することを大切にしなければいけない。価値ある課題を生み出すためには，子どもがどのような活動ができそうか，やってみたいのか見通しをもち，自分なりに取り組みへの意欲と期待がもてるような単元名をつけることを大切にしていく。そして，個別の課題を相互に吟味・検討し合い磨き合うことで，各自の課題が共通の課題となったり，探究する価値のあるものとなったりする。

上記のことを支援するためには，クラスの子どもたちがどのようなことに興味・関心をもっているのかを知る必要がある。そして，課題に対してどのような視点で探究しようとしているのか，どのようなことを疑問に思っているのかをみとる必要がある。子どもたちはその追究の過程を通じて，知識を得るだけでなく，自ら課題解決ができる力を身につけていく。

① 総合における協同的な学び

総合では，「探究する学びを創る」ために，ひとり学習，グループ学習，そして全体学習を大切にする。ひとり学習，グループ学習で，個々の学びを深めさせ，全体学習で学習経過や学習成果を交換・交流させることで，三位一体の対話をすることができる。

ひとり学習

１人ひとりが、価値ある課題に向かって１人学習を深めることで、多様な考えが出てくる。その考えを、全体学習で活かすことで学びが深まる。

グループ学習

総合のグループ学習の特徴として、類似した学習課題でグループを作ることがある。それにより、必要とする資料や情報を共有しやすくなり、共通の目標をもって調べ学習ができる。また、教え合い、学び合いなどの子ども同士のかかわり合いも生み出しやすい。切実感のある課題をグループで解決しようとすることで、課題意識を高めていくことができる。

全体学習

総合における全体学習は、ひとり学習、グループ学習を発展させる場であり、それぞれの考えを伝え合い響かせ合う場である。そうすることで、子どもたちは、課題に対して調べ直しや考え直しの必要性を感じ、ひとり学習、グループ学習への意欲も高まる。ひとり学習、グループ学習の充実によって全体学習が深まり、また全体学習の深まりによって、次のひとり学習、グループ学習につながっていく。

② 総合における２つの焦点化

学校提案には，「学びに向かわせていく焦点化」と「本時のでの学びの質の高まりを意識した焦点化」の２つが示されている。

総合における「学びに向かわせていく焦点化

総合における学びに向かわせていく焦点化とは、社会的に価値のある課題に対して、必然性をもって自ら求めて粘り強く課題解決していこうとする思いをもたせることである。そのためには、まず自分たちの力で解決したいという思いをもった課題を設定する。そして、課題解決の意識を高めるために「ひと・もの・こと」と出合い、“ほんまもん”から学ぶことが大切である。直接体験を経験することで、疑問や調べ学習の不足に気付くことができ、「もっとこうしたい」と感じることができる。

総合における「本時の中での学びの質の高まりを意識した焦点化」

総合における本時の中での学びの質の高まりを意識した焦点化とは、ひとり学習、グループ学習で調べてきたことを全体学習で他者と対話する中で、自分の考えが揺さぶられ、自己の思いを更新する場を設定することである。三位一体の対話を大切にして全体学習をする中で、他者との見方・考え方の違いや自分自身の見方・変容に気づくことができるようにしていく。

（２）総合でめざす子ども像

総合は，価値ある課題を解決しようとすることによってやり遂げるという学習活動の経験を与えることができる。その中で，総合部では下記のような子どもの姿をめざし，研究を進めていきたいと考えている。

① 自ら社会的に価値のある課題を設定することができる子ども
② 課題に向かって全力で探究することができる子ども
③ 多くの情報から自分に必要な情報を取捨選択できる子ども
④ 対象に対して、多様な視点で探究できる子ども
⑤ 対話を通して人の意見に共感したり、自分の考えを見つめなおすことができる子ども

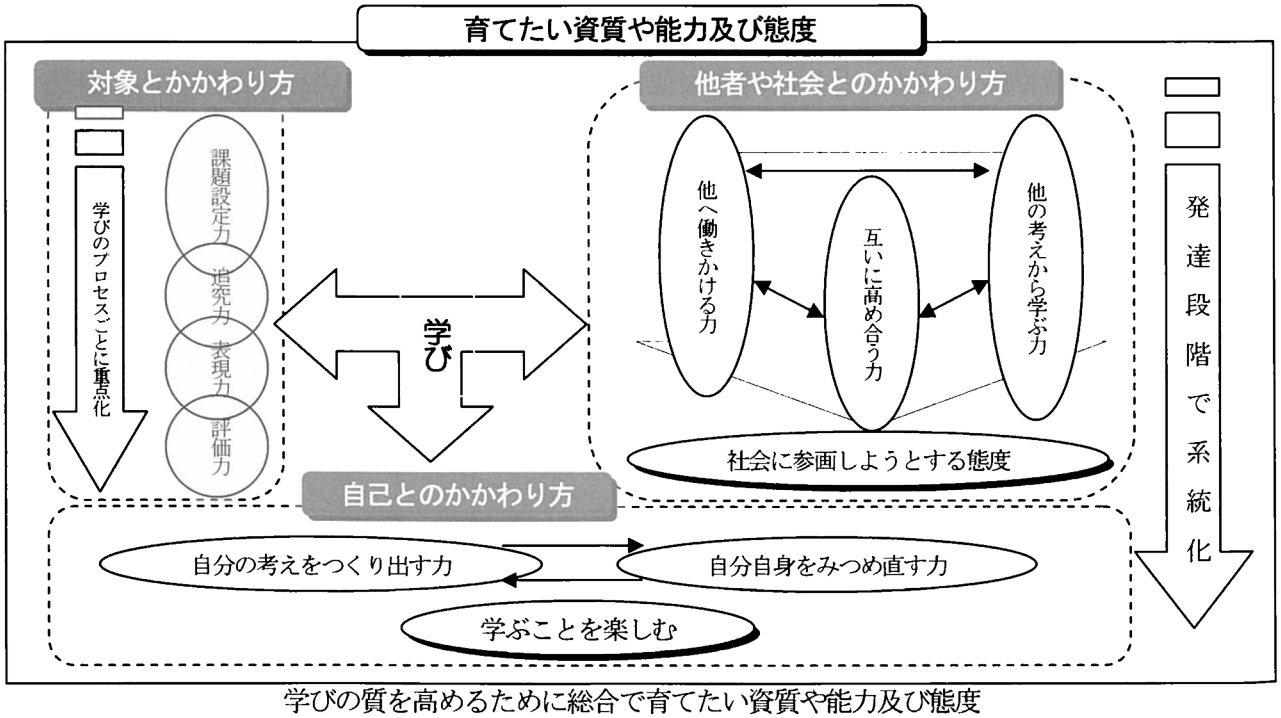
2. 総合における「学びの質の高まり」

総合では，子どもがそれぞれに自分の好きなところに土俵を設けて，自分たちの良さを十分に発揮して，学ぶことができることが最大の魅力である。子どもたちが，何とかしてやり遂げたいと思える課題が生まれる教材に出合せることが教師の大きな役目である。切実感のある課題と出合うことで，子どもは自ら探究し，多様な視点で対象と向き合おうとする気持ちが生まれる。そして，全体学習で他者と対話していくことで，その気持ちが高めることができる。それが，総合における学びの質の高まりだと考える。

３年A組の実践から

工夫することで成果を感じたことで学びの質が高められた場面

子どもが野菜作りをしているすぐ横で地域の人が野菜作りをしている。子どもの１人が，地域の野菜が自分たちよりも大きく立派に育っていることを気づき，自分たちも工夫して育てようと考えるようになった。その子は，畑に藁があったことに目をつけ，すぐに家から藁を持ってきた。そこで，みんなでその藁が何のために必要なのかを考えた。藁は，土の乾燥を防いだり，雑草を生えにくくすることを知った。それから，藁を敷く子どもが増えた。しかし，藁が少ししか敷いていなかったら風に吹き飛ばされてしまうことや，多くの藁はなかなか手に入らないことが分かった。そこで，藁に代わるものがないかを考えることになった。近所の畑で黒いビニールを使っているのに気づいた子どもがいた。そこで，何のために黒いビニールを敷いているのかを考えた。多くの子どもの予想は，藁と同じような効果だと分かっていた。黒いビニールはマルチシートだということを知っている子がいて，お店に売っていることまで分かった。それから，藁だけでなく、マルチシートを準備してほしいと言ってくる子どもが出てきた。１人の子どもが工夫していくことで，その工夫を真似しようとしたり，みんなで意味を考えることができる。それにより，その工夫が本当にいいのかどうかも含めて考える事ができる。工夫することにより，野菜の成長が目に見えて分かった。子どもは，「もっとこうしたい。」「もっと調べてみよう。」と思えるようになった。



学びの質を高めるために総合で育てたい資質や能力及び態度

３．研究の展望

総合で三位一体の学びを成立させ，より充実させるための重要なポイントとして次の３点が考えられる。今後の研究の視点としたい。

① 子どもが夢中になる教材開発と学習課題の設定

子どもたちが楽しくて一生懸命になってしたくなる活動や課題，もっとこうしたいと思えるように「ひと・もの・こと」との出合いを取り入れた教材開発が必要である。そして，その課題を自分たちの力で乗り越えて，社会的に価値のある目標を実現するという学習活動を経験することが必要となる。そのためには，直接体験や身体を使い知恵を働かせて努力・工夫したくなる活動を設定していく。また，他の友だちと協同して活動できる学習課題が大切である。学習課題とは，子どもたちの問題意識から始まり，それぞれに刺激し合う中で思考を深めていくものである。

② ひとり学習の充実と学びの質の変容

魅力的な学習課題と出合い自らその課題かかわっていくことで，ひとり学習の質が高まっていく。学びの質を高めていく上で，子どもがどのようなひとり学習をしているのかをみとり必要な支援をすることが大切である。子どもが学びを進めているノートや作文，発言から個々の学びをみとり，子どもたちの変容を把握していく。それぞれが調べてきていることにコメントをし，個に応じた支援をすることで，子どもたちの学びを深め，全体学習へとつないでいく。

③ 対話の充実

ひとり学習で調べてきたことや考えてきたことを全体学習でお互いに伝え合い，吟味を促していく。対話において，他者の考えを聞いて，自分の考えと照らし合わせることを特に大切にしていくことで，考え合うことで学びの質を高めていくことができる。

４．研究の評価

総合においては，自己の変容を可視化するために単元の導入，活動の節目，終末に作文を書いて，自らの変容を確かめるようにする。また，教室に学びの足跡を掲示することで学びを確認し，共有できるようにする。一人ひとりが個人ファイルに調べてきたことや考えを蓄積していくことで，新たな課題を見つけたり，学びを深めるようにする。そして，教師は，子どものひとり学習を個人ファイルや発言などでみとるとともにその変容を把握し，個々の学びを評価する。全体学習では，お互いの考えを伝え合う活動を通して，話し合いによる学びの質の深まりをみとり，評価する。また，学習の流れ，個人の思いが可視化できるように板書の工夫や振り返りの作文を書かせることで，自己への認識を更新し，新たな視点で思考することができる子どもを育てていく。